

東北大学大学院経済学研究科
地域イノベーション研究センター
活動報告書
(2016.4.1～2017.3.31)

2017年3月

東北大学大学院経済学研究科
地域イノベーション研究センター

Regional Innovation Research Center
Graduate School of Economics and Management
Tohoku University

目 次

1. 地域イノベーション研究センターの概要	1
2. 地域の調査研究事業.....	2
2-1 東北発水産業イノベーションプロジェクト	2
2-1-1 プロジェクトの概要.....	2
2-1-2 プロジェクトの活動内容	3
3. 地域の人材育成事業.....	6
3-1 地域イノベーションプロデューサー塾・地域イノベーションアドバイザー塾 .. 6	
3-1-1 概要.....	6
3-1-2 ベーシックコース.....	7
3-1-3 アドバンストコース	11
3-1-4 卒塾後の重点支援	14
3-1-5 プルデンシャル財団助成事業	15
3-1-6 OB会の活動.....	19
3-2 みやぎ県民大学	20
3-3 社会イノベーター人材育成塾.....	21
3-4 地域・学生交流プログラム（プロデューサー塾）.....	23
4. 地域交流と広報.....	25
4-1 連携協定締結.....	25
4-2 地方自治体、金融機関、経済団体等との連携によるセミナーの実施	26
4-3 人材育成の支援	26
4-4 パブリシティ（新聞・雑誌掲載記事一覧）	27
【今年度の実施事業】	28
【所在・連絡先】	28

1. 地域イノベーション研究センターの概要

地域イノベーション研究センターは、2005年7月、東北地域のイノベーション能力の向上を通じて地域の産業振興と経済発展に貢献するために設立された。東北大学大学院経済学研究科の附属機関であり、これまで蓄積してきた知的成果と教育研究能力を地域社会の課題解決と人材育成に活用していく使命を担っている。主な事業活動は、地域社会の調査研究と人材育成が二本の柱である。

2011年3月の東日本大震災から6年もの月日が経過したが、地域イノベーション研究センターでは、震災直後の2011年4月から2016年3月までの5年間、本研究科教員のみならず東北地域の様々な大学や専門機関から有志が集まり、「地域産業復興調査研究プロジェクト」および「地域発イノベーション事例調査研究プロジェクト」（東北活性化研究センターとの共同プロジェクト）を組織し、東北地域の産業・社会に関する本学の震災復興支援活動の中核的な役割を担ってきた。

また、2012年度より、地域企業の事業創造者や革新者を育成するために「地域イノベーションプロデューサー塾」を開講した。そして、2015年度より、彼らを支援する地域金融機関などの支援者の目利き能力と支援力を育成するために「地域イノベーションアドバイザー塾」を開講した。さらに、2016年度にはこれらの融合を図り、事業創造・革新を担う事業者とその支援者の一体的教育を通して地域社会に貢献するための日本初の試みがスタートした。

その結果、安倍内閣が政策的に推進する「地方創生」事業として、宮城県の地方版総合戦略の柱の一つとして内閣府に申請され、2015年10月からの地方創生先行型（補助金）が交付され、2019年度までの新型交付金の対象事業として採択された。（2016年度については宮城県の発展税からの支出）

2016年度の主な財源は以下の通りであった。地域イノベーションプロデューサー塾および地域イノベーションアドバイザー塾の入塾料 2,090万円、プルデンシャル財団からの寄付金 193万円、経済同友会（IPPO IPPO NIPPON）からの寄付金 619万円、経和会記念財団助成金 47万円、そして宮城県からの補助金 2,400万円などを合わせて約 5,350万円となった。

当センターは、安倍内閣の看板政策の一つである「地方創生」という言葉に踊らされることなく、大局的かつ長期的な視点から地域社会の本質的な課題解決に貢献することが期待されている。これからも地域社会にとってインパクトある貢献を果たしていきたい。

地域イノベーション研究センター長
藤本雅彦

2. 地域の調査研究事業

2-1 東北発水産業イノベーションプロジェクト

2-1-1 プロジェクトの概要

本プロジェクトは、「地域社会に大きなインパクトを与える調査研究」として、今年度から5年間にわたって東北の水産業（特に水産加工業）のイノベーションに取り組む事業である。東北の主要産業の一つである水産業は1990年代以降急速にその規模を縮小しており、震災によってさらに大きな打撃を受けた。そのため、従来とは異なる水産業の在り方やビジネスモデルの構築などのイノベーションを推進することが喫緊の課題となっている。本プロジェクトの大きな特徴は、実際に地域水産業の変革にとって大きなインパクトを生み出すために実効性の高い戦略と行動を計画実行し、その効果を継続的に検証していくことである。

初年度となる今年度は、東北地域の水産業に関する定量的および定性的な分析によって実態把握と重要課題を明らかにするために、東北経済産業局、宮城県、岩手県、みやぎ産業振興機構および民間企業などの研究者や実務家たちと共同で研究会を編成して調査研究に取り組んだ。

東北発水産業イノベーションプロジェクト

■ プロジェクトの理念: (Action Research Project)

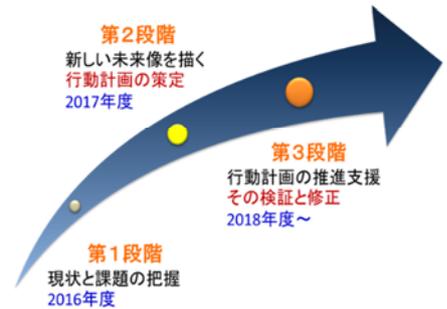
- 「社会にインパクトのある研究」(東北大学の全学的研究方針)
- 地域社会に大きなインパクトを与えるためのアクションを伴う実効性の高い調査研究プロジェクト

■ 東北地方ならではのプロジェクトのテーマ:

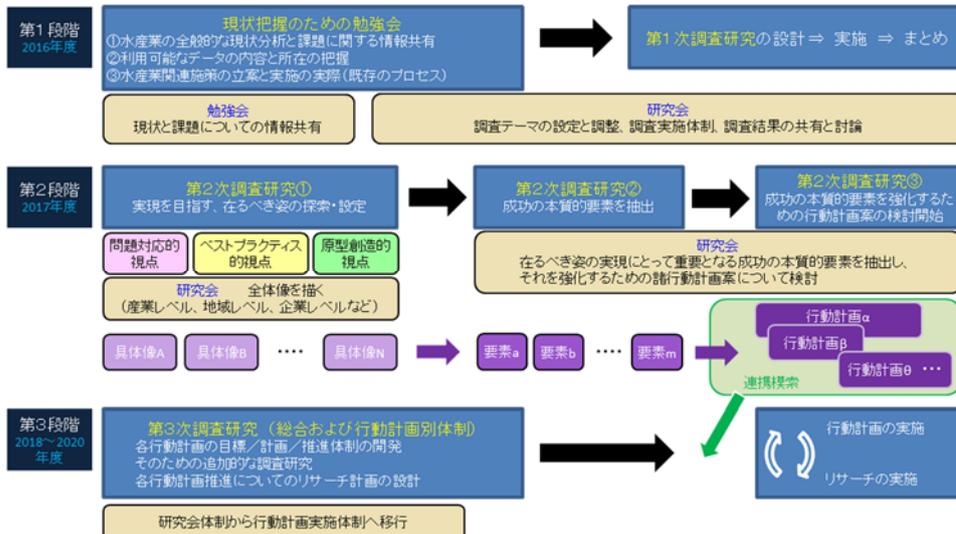
- 水産加工業を中心にして新たなビジネスモデルと政策に関する調査研究
- アクションおよびその検証

■ プロジェクトの活動内容: 2016年度～2020年度(5年間)

- 東北地域の水産業に関する定量的および定性的な分析による全体像の実態把握
- 海外も含む地域内外の優れたビジネスモデルや政策の調査分析
- 東北地域での新たなビジネスモデルや政策の実現に向けた課題解決策の立案
- 課題解決策のアクションと検証
- 地域創生のモデルとなる方法論の構築



東北発水産業イノベーションプロジェクト推進計画



プロジェクト構成員 (2017年3月現在)

所属機関	氏名
宮城県農林水産部次長	宮川耕一
宮城県農林水産部次長	小林徳光
宮城県農林水産部水産業振興課長	佐藤靖
みやぎ産業振興機構コーディネーター(元宮城県農林水産部次長)	笠原恵介
宮城県経済商工観光部富県宮城推進室企画班長	佐藤仁
宮城県経済商工観光部富県宮城推進室主査	大泉織絵
岩手県沿岸広域振興局経営企画部 産業振興課長	竹花光弘
岩手県商工労働観光部産業経済交流課 食産業担当課長	藤原由喜江
東北経済産業局地域経済部東日本大震災復興推進室長	小林学
大和製罐株式会社 東部営業所主任	小林健一
宮城大学食産業学部教授	西川正純
東北大学地域イノベーション研究センター特任教授	板垣良直
東北大学地域イノベーション研究センター地域連携室長	富澤辰治
東北大学地域イノベーション研究センター教授(プロジェクト・デザイナー)	権奇哲
東北大学地域イノベーション研究センター教授(プロジェクト・マネジャー)	藤本雅彦
東北大学農学研究科 名誉教授(技術顧問)	佐藤実

2-1-2 プロジェクトの活動内容

(1) 研究会活動

プロジェクトの発足後、東北地域の水産業の現状把握のための研究会、調査設計会議を経て各企業への訪問調査や、東北地域の水産業に関する定量分析を実施し、その結果の共有、討議のための会議等を行った。

2016年度の主な研究会活動

日程	テーマ	担当講師
5月20日(金)	「宮城県の水産業の現状と課題」	宮城県農林水産部次長 小林徳光氏
6月1日(水)	「水産物マーケティングとブランディング政策」	東北経済産業局地域経済部東日本大震災復興推進室長 小林学氏
6月23日(木)	「東日本大震災からの復興支援～名取市閉上、南三陸町での取り組みについて～」	宮城大学食産業学部教授 西川正純氏
7月5日(火)	「震災後の水産加工業の現状と新しい動き～現場の視点から～」	大和製罐(株)東部営業所主任 小林健一氏
7月21日(水)	「水産加工業の課題と伴走型支援」 (企業の声などから見る課題と今後の支援体制について)	みやぎ産業振興機構コーディネーター 笠原恵介氏
8月8日(月)	「岩手県沿岸地域における産業復興の着眼点」& 第1回調査設計検討と意見交換: 「調査方針と計画についての意見交換」	岩手県沿岸広域振興局経営企画部 産業振興課長 竹花光弘氏 岩手県商工労働観光部産業経済交流課 食産業担当課長 藤原由喜江氏
9月2日(金)	第2回調査設計検討会議:「調査対象候補企業の選定方法について」	
9月15日(木)	第3回調査設計検討会議:「三陸沿岸および全国の候補企業のリストについて」	
10月7日(金)	第4回調査設計検討会議:「調査候補企業の調査内容と調査方法について」	
10月31日(月)	第5回調査会議:「調査の進捗状況について」	
11月25日(金)	第6回調査会議:「調査の進捗状況について」	
12月15日(木)	第7回調査会議:「調査の進捗状況について」	
1月18日(水)	第8回調査会議:「調査の進捗状況について」	
3月7日(火)	第9回調査会議:「調査の進捗状況について」	

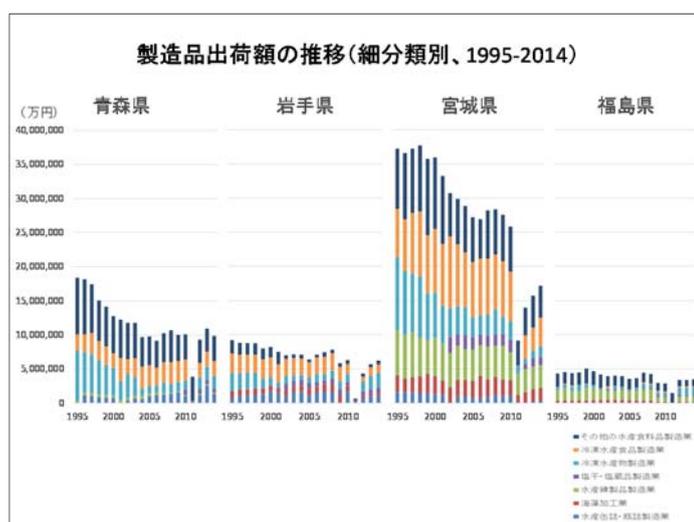
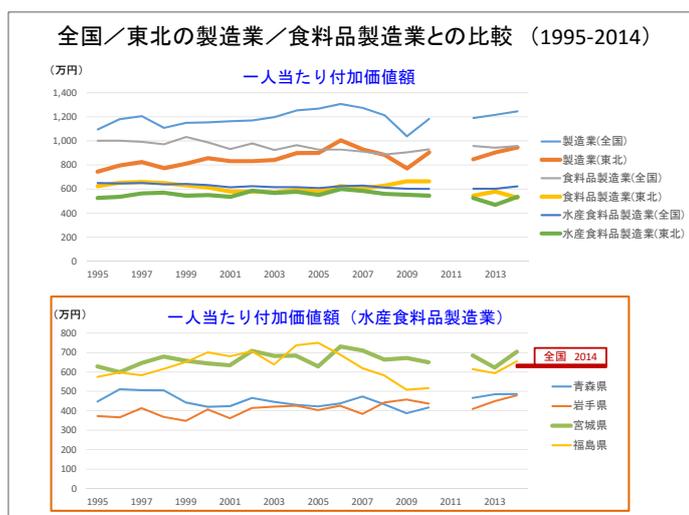
(2) 中間報告カンファレンスの開催

2017年3月27日に本プロジェクトの中間報告カンファレンスを開催し、自治体の政策立案関係者等に2016年度の調査活動の結果について報告した。

【定量的分析による実態把握調査】

震災前後の東北水産加工業の実態について、経済産業省の工業統計を用いて分析を行った。

経済産業省工業統計調査による 震災前後の東北水産加工業の実態	
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ● 東北の水産食品製造業の様子を可視化し、中期的および震災前後にどう変化してきたのかを可視化する。 ・事業所数 ・事業規模関係：従業員数、原材料使用額、製造品出荷額 ・一人当たりの製品出荷額、付加価値額、現金給与額 ● 特に、東北6県のうち、主要4県(宮城、岩手、青森、福島)については県別にその様子を把握する。
使用統計	経済産業省の工業統計（1995年～2014年の統計）



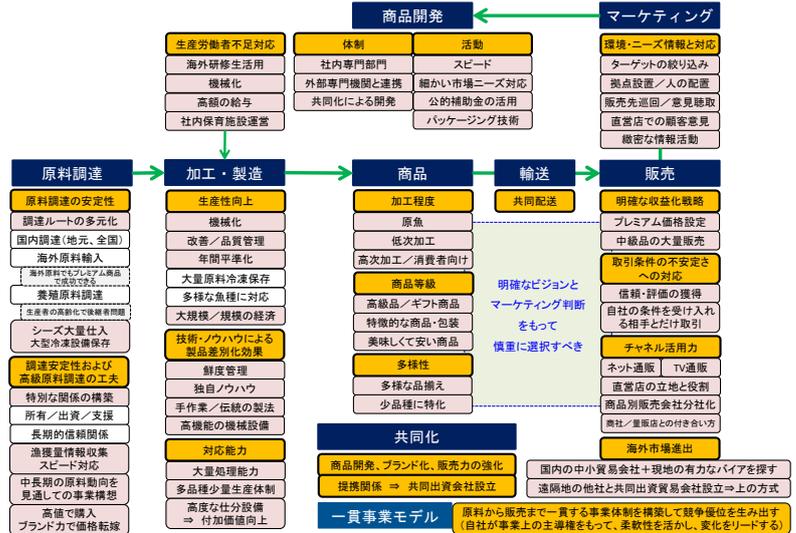
【定性的調査による実態把握（企業訪問調査）】

宮城県内および全国の優れたビジネスモデルの企業を訪問し、その実態の把握と他社との差別化戦略や競争力を生み出すポイント等を中心にヒアリング調査を行った。

訪問企業数

エリア	県名	訪問企業・機関数
北海道	北海道	10
東北	青森	5
	岩手	13
	福島	4
関東	宮城	19
	東京	2
中部	千葉	3
	新潟	2
	静岡	3
	愛知	1
合計		62

事項別の対応ポイント



企業訪問調査結果の中間まとめ (全国、宮城県)

水産加工業の特徴と問題の所在

- 特徴① 原料供給の不確実性**
漁獲量、単価が大きく変動する
中長期では資源賦存量自体が変動している
- 特徴② 「腐りやすい」対象物**
殺菌と保存性という特徴的な概念
→ 基本的に品質(味・見た目)やコストとトレードオフ

- 特徴③ 狭いマーケット**
ローカルなマーケットでの勝負競争
相手が相対的に少なく、製造業としての磨き上げ進まず

殺菌・保存技術の進展
新興国の所得向上

競争環境の変化

- 原料調達市場の拡大**
 - 原料調達の全国仕入、海外輸入が可能に
 - 世界中の需給変動にさらされることに
- 販売市場の拡大**
 - 販路の全国、世界への拡大が可能に
 - 競合社の参入リスクにさらされることに

これらの制約条件を乗り越えることで、大幅な競争優位に立つことが可能になる
⇒ 市場環境の変化に適応するためにも積極的な対策が必要

3. 地域の人材育成事業

3-1 地域イノベーションプロデューサー塾・地域イノベーションアドバイザー塾

3-1-1 概要

(1) 地域イノベーションプロデューサー塾 (RIPS)

地域イノベーションプロデューサー塾は、地域企業、特に中小企業の経営人材を対象に、革新的なイノベーションによる新事業の開発を促進し、地域における新たな雇用機会の創出と産業振興に貢献できる革新的プロデューサーを育成する事業である。RIPS は、地域の経営人材が未来を創るイノベーションに挑戦し、魅力的な事業プランを開発し、構想力と実行力を支える知力・スキル・マインドを学習するための場を提供するとともに、卒塾後の事業プランの実現化を支援していく。



(2) 地域イノベーションアドバイザー塾 (RIAS)

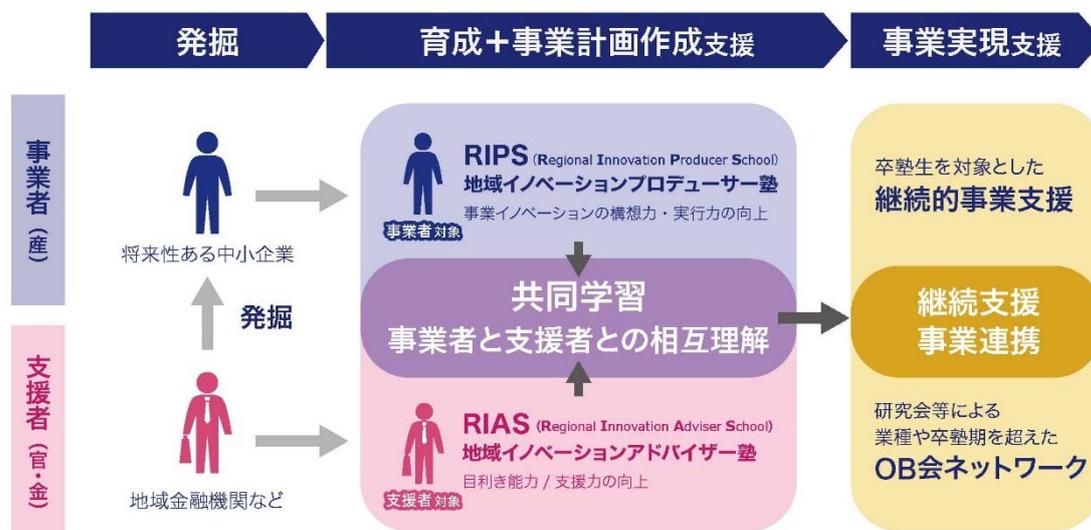
地域イノベーションアドバイザー塾は、近年、大きな政策課題となっている高度な目利き力と支援力をもって、地域中小企業経営者に伴走して支援を行う金融機関や自治体の人材を育成するという課題に対処するため、地域企業の経営者の目線で事業革新を支援するパートナーとなるための企業経営と事業革新に関する体系的な知識や支援に必要な実践的なスキルなどを学習する機会を提供し、産学官による地域イノベーションシステムの土台を築き上げていく。



【今年度の主要な動き】

- サテライトを会津若松市から郡山市に、花巻市から盛岡市にそれぞれ移設した。
- RIPS と RIAS とともに、ベーシックコース (3 か月)、アドバンストコース (3 か月) の 2 コースを設置した。また RIPS と RIAS の塾生が共同で学習するという新しい仕組みを導入し、事業者と支援者が相互理解を深めながらそれぞれの学習目標を達成していくことにした。
- 2016 年 4 月 23 日にベーシックコースの入塾式が行われ、RIPS 生 (第 4 期生) 41 名、RIAS 生 (第 2 期生) 32 名が入塾した。
- 2016 年 7 月 30 日にベーシックコースの成果発表会、卒塾式が行われ、RIPS 生 41 名、RIAS 生 32 名に卒塾証書を授与した。また、優れた事業プランを発表した RIPS 生 5 名を表彰した。
- 2016 年 9 月 3 日にアドバンストコースの入塾式が行われ、ベーシックコースの修了者のうち、RIPS 生 30 名、RIAS 生 14 名がアドバンストコースに進級した。
- 2016 年 12 月 10 日にアドバンストコースの成果発表会、卒塾式が行われ、RIPS 生 29 名、RIAS 生 14 名に卒塾証書を授与した。また、優れた事業プランを発表した RIPS 生 5 名、および優れた個人研究 (イノベーション支援に関する研究) を行った RIAS 生 3 名を表彰した。
- 米国のプルデンシャル財団助成事業において、5 事業が選定され、計 3,000 万円の助成金が交付された。なお、本助成事業は今年度が最終年度である。藤本センター長らが米国の財団本部を訪問し、最終報告を行い、大学からの感謝状を贈呈した。

RIPS と RIAS の全体像



3-1-2 ベーシックコース

(1) 塾生募集

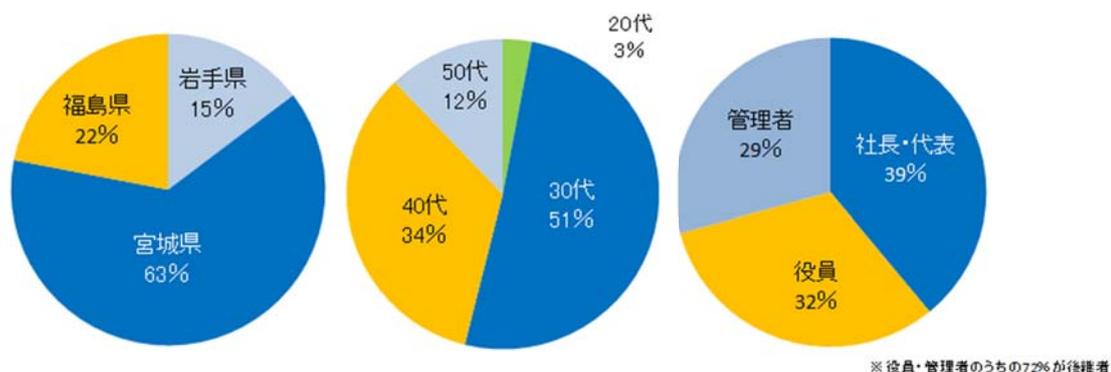
1) RIPS

今年度の塾生募集は「推薦募集」および「一般公募」の2方式で行われた。事前に推薦機関を個別訪問して説明会を行うとともに、センターHPに募集要項を掲載し、新聞広告とDM発送を行った。推薦募集と一般公募合わせて45名の応募があり、そのうち41名が入塾した。

2016年度ベーシックコース入塾者数

	推薦募集	一般公募	合計
仙台本校	22	4	26
盛岡サテライト	5	1	6
郡山サテライト	5	4	9
入塾者計	32	9	41

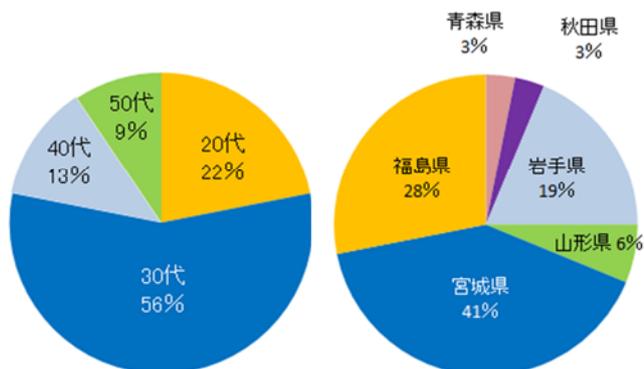
入塾者41名の地域別、年齢別および性別の分布は、以下のとおりである。



2) RIAS

RIAS に応募できる者は、原則として東北6県（青森県、秋田県、岩手県、宮城県、山形県、福島県）に本店をおく金融機関、公的支援機関および市制を敷く自治体の職員であって 所属機関から派遣される者とされている。センターHP に募集要項を掲載し、東北地域内の金融機関、自治体等に DM を発送した。32 名が入塾し、その地域別、年齢別の分布は以下の通りである。

所属	入塾者数
銀行	10 (31)
信用金庫	11 (34)
信用組合	7 (22)
自治体	2 (6)
商工会議所	2 (6)
合計	32 (100)
	() は%



(2) カリキュラムと主要日程 (RIPS、RIAS 共通)

1) カリキュラム

ベーシックコース				開講場所		
科目区分	講義 土曜日：10:00-12:00 火曜日：19:00-21:00	講義 土曜日：13:00-15:00	実習 土曜日：15:20-17:20	仙台 本校	盛岡 サテライト	郡山 サテライト
4月23日(土)	入塾式・ガイダンス		入塾研修：「塾で何をどう学習するか」(3時間)	仙台近郊で合宿		
4月24日(日)	入塾研修：「基本を学ぶ」(2時間)		「問題解決&プレゼンテーション」(4時間)			
5月14日(土)	イノベーションとデザイン I	イノベーションとデザイン II	読書課題(事前課題)討論	授業	中継	中継
5月17日(火)	伝統産業のイノベーション			授業	中継	中継
5月28日(土)	環境認識と大局観	経営戦略の基本	原型思考と経験デザイン実習	全員 仙台本校		
5月31日(火)	地域企業のイノベーション戦略			中継	中継	授業
6月11日(土)	マーケティング I	マーケティング II	事業研究 I	授業	中継	中継
6月14日(火)	需要分析と集客デザイン			授業	中継	中継
6月25日(土)	事業デザイン I	事業デザイン II	事業研究 II	全員 仙台本校		
6月28日(火)	販路開拓			中継	授業	中継
7月09日(土)	経営と法務	ブランド戦略	事業アイデア予備発表	授業	中継	中継
7月12日(火)	知財の実態			授業	中継	中継
7月23日(土)	人材・組織マネジメント I	人材・組織マネジメント II	事業アイデア最終検討	全員 仙台本校		
7月30日(土)	13:30-15:00 成果発表パネル展示会		16:00-17:00 卒塾式	仙台本校		

2) 主要な日程

2016年4月23日(土)	入塾式、ガイダンス、研修：塾で何をどう学ぶか
～4月24日(日)	入塾研修：基本を学ぶ、問題解決&プレゼンテーション
2016年5月	カリキュラムに基づいた授業
～7月	(講義及び実習)
2016年7月30日(土)	成果発表パネル展示 卒塾式、卒塾パーティー

【入塾式と入塾研修】

2016年4月23日(土)～24日(日)にラフォーレ蔵王で入塾式および入塾研修が行われた。入塾研修ではRIPS、RIASでの学習成果を上げるための基本的な考え方や態度について学習し、また問題解決のための考え方、効果的なプレゼンテーションの手法についての研修が行われた。



【RIPS 事業構想成果発表会】

RIPS 生の新事業構想は、実習の場でイメージ形成される。実習ではRIPS、RIAS 生が混成グループを組み、RIPS 生は同じグループのRIAS 生の支援を受けるとともに、グループ内での議論を通じ新事業構想の開発を行った。

2016年7月30日(土)は、RIPS 生たちが3ヶ月間の学習成果を発揮して作成した新事業構想についての成果発表、パネル展示が開催された。RIPS の教員と実習ファシリテータだけでなく、東北地域イノベーション推進コンソーシアム、推薦機関、サテライトからも多くの関係者が参加した。

パネル展示では、RIPS 生が自身の事業構想をパネルに取りまとめ、参加者との間で質疑応答、議論が行われた。また、発表会ではRIPS 生、RIAS 生がグループごとに3会場に分かれ、RIPS 生がそれぞれ5分間の発表をした。その際、事業構想作成の支援を行ったRIAS 生から代表して感想やコメントが述べられ、さらに、実習ファシリテータがコメントを行った。なお、RIAS 生には、RIPS 生への毎回の支援内容や気づきに関するレポート提出を義務づけ、支援力、目利き力を向上させた。



【卒塾式】

成果発表会の後、卒塾式が行われ、RIPS 第 4 期生として 41 名に、RIAS 第 2 期生として 32 名に卒塾証書が授与された。そして、RIPS 生の中から優秀な事構想を作成した 5 名に対する表彰が行われた。



RIPS ベーシックコース卒塾者



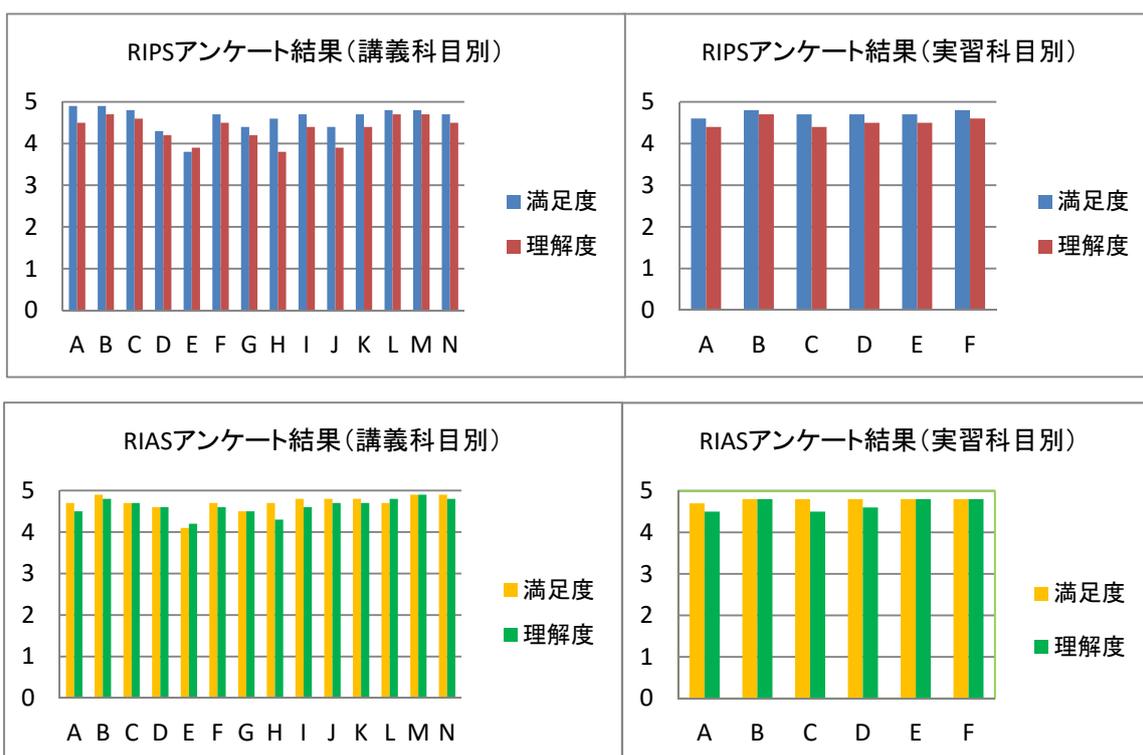
RIAS ベーシックコース卒塾者

優 秀 賞	後藤 誠	宮城トヨタ自動車株式会社
	菅原 紀	株式会社ノースブル
	高谷 将宏	株式会社エヌエスシー
	平岡 太郎	株式会社アサカ理研
	横江 寛明	横江コンクリート株式会社

2016 年度 RIPS (ベーシックコース) 優秀賞受賞者

(3) 授業アンケートの結果

すべての授業について RIPS と RIAS ごとに授業アンケートを実施し、塾生の満足度と理解度を確認した。講座ごとの結果を総合すると下図のとおりで、おおむね良好な結果となった。また RIPS と RIAS とで理解度、満足度に顕著な差はなかった。



3-1-3 アドバンストコース

(1) 塾生募集

1) RIPS

アドバンストコースへの応募資格は、ベーシックコースを卒業した者とされている。今年度のRIPSベーシックコース卒業生41名の中から30名の応募があり、全員の入塾が認められた。

2) RIAS

アドバンストコースへの応募資格は、RIPS同様ベーシックコース卒業者とされており、今年度のRIAS卒業生32名中13名と、昨年のRIASベーシックコース卒業生から1名の計14名の入塾が許可された。



(2) カリキュラムと日程

アドバンストコースのカリキュラムおよび主要な日程は、以下のとおりである。アドバンストコースではRIPS生は、ベーシックコースでの成果を踏まえて、3年以内に革新的な新事業を立ち上げることを目指して魅力的な事業プランを完成させること、RIAS生は、RIPS生が行う実際の事業開発プロセスに参加し支援実習を通じて地域企業のイノベーションを促進する、高度な目利き力と支援力を修得することを目指している。

月	日	曜日 催事	補完セッション		実践ゼミ	
			10:00-12:00		13:00-17:00 ※延長時は18:00まで	
9	3	土 グループ 編成			I	<ul style="list-style-type: none"> 学習ガイダンス グループ編成 その他
	17	土	1	<ul style="list-style-type: none"> RIPS生: コーチとの面談 RIAS生: グループワーク その他 	II	<ul style="list-style-type: none"> 実習1: 事業コンセプトの発想と精査 実習2: 事業概要レポートの構成決定
10	1	土	2	<ul style="list-style-type: none"> RIPS生: コーチとの面談 RIAS生: グループワーク その他 	III	<ul style="list-style-type: none"> 実習: 事業概要レポートの相対評価, 精査検討
	15	土 事業概要 R提出	3	<ul style="list-style-type: none"> RIPS生: コーチとの面談 RIAS生: グループワーク その他 	IV	<ul style="list-style-type: none"> 実習: 第1課程成果のグループ内発表 提出: RIPS-事業概要レポート
	29	土	4	<ul style="list-style-type: none"> RIPS生: コーチとの面談 RIAS生: グループワーク その他 	V	<ul style="list-style-type: none"> 実習1: 収益のしくみと装置の設計と精査 実習2: 事業構想レポートの構成決定
11	12	土	5	<ul style="list-style-type: none"> RIPS生: コーチとの面談 RIAS生: グループワーク その他 	VI	<ul style="list-style-type: none"> 実習: 事業構想レポートの相対評価, 精査検討
	13	日 補講		補講: 選択_個別指導 事業構想レポートの相対評価, 精査検討		
	26	土 事業構想 R提出	6	<RIASの発表会リハーサル>	VII	<ul style="list-style-type: none"> <RIPSの発表会リハーサル> 実習: 第2課程成果のグループ内発表 提出: RIPS: 事業構想レポート RIAS: 個人研究レポート
	27	日 補講		補講: 選択_個別指導 事業構想レポートの相対評価, 精査検討		
	30	水 最終R 提出		提出: RIPS: 事業構想レポート(最終版) RIAS: 個人研究レポート(最終版) ※電子媒体にてRIRC事務室に提出。MS PowerPoint または MS Wordで作成(PDF禁止)		
12	5	月 発表会 R提出		提出: 成果発表会のプレゼン資料(RIPS, RIAS) ※電子媒体にてRIRC事務室に提出。MS PowerPoint または MS Wordで作成(PDF禁止)		
	10	土 成果 発表会		午前: RIAS成果発表会		午後: RIPS成果発表会

(3) 実践ゼミ及び個人研究の実施内容

実践ゼミは、RIPS 生 6 名、RIAS 生 3 名程度で構成される複数のクラスを作り、クラスでの討議等を通じて RIPS 生はビジネス・プランを作り上げ、RIAS 生は支援力、目利き力を高めていく方法を採用した。なお、RIPS 生はクラスメンバーを固定し、RIAS 生は 1 回ごとにクラス替えを行い受講中にすべての RIPS 生と議論を行って支援実習の効果を高めるよう配慮した。

1) RIPS

卒塾後 3 年以内に実施するためのビジネス・プランの設計を目標として、全 8 回の実践ゼミを計画通り実施することができた。第 1 課程 (3 コマ) では事業コンセプトの発想と精査を、第 2 課程 (3 コマ) ではコンセプトの収益構造を具体的なビジネス・モデルとして組み立て、事業システムの設計を実施し、最終第 7 回ではビジネス・プラン発表会のリハーサルを行った。この間、2 回の補講日を設け、事業構想レポートの相対評価、精査検討が行われた。

また、今年度の新しい試みとして、実践ゼミが行われる日の午前中を補完セッションの時間にして、塾生は任意での参加ではあったが RIPS 生とコーチとの面談、RIAS 生からのアドバイス時間として活用された。

2) RIAS

RIAS 生は第一課程、第二課程の 6 コマにおいて、支援者の立場から RIPS 生の事業計画をヒアリングし、その問題点の把握と解決策に関する支援実習を行った。具体的には、①事業者から構想や課題についてヒアリングを行い、②次回までに問題解決支援レポートを作成し当該 RIPS 生にプレゼンをグループ全員の前で行い、③そのプレゼン内容についてグループ内の RIPS 生全員から評価 (フィードバック) をもらうということを 5 回繰り返した。

また RIPS 生と同様に、実践ゼミが行われる日の午前中を補完セッションにして、塾生は任意での参加ではあったが RIAS 生同士のグループワーク、RIPS 生へのアドバイスの時間として活用された。また、各塾生が独自に研究テーマを設定し、自ら調査研究を行って、その成果を「イノベーション支援に関する研究レポート」として取りまとめた。個人研究のテーマやまとめ方等について教員やスタッフと面談を行うとともに、発表リハーサルを行って問題点等について指導した。

(4) 成果発表会と卒塾式

2016 年 12 月 10 日に RIAS と RIPS の成果発表会がそれぞれ開催された。引き続き卒塾式が行われ、RIPS 第 4 期生 (アドバンストコース) 29 名、RIAS 第 2 期生 (アドバンストコース) 14 名に対して卒塾証書が授与された。そして、RIPS 生の中から優秀な事業計画を作成した 5 名に対する表彰が行われた。また、RIAS 生の「イノベーションに支援に関する研究レポート」において優秀と認められた 3 名に対し表彰が行われた。

2016年度 RIPS(アドバンストコース)受賞者

ベストイノベーション賞	横江 寛明	横江コンクリート株式会社
優秀賞	荒川 広志	株式会社ユニフォームネット
	菅原 紀	株式会社ノースブル
	平岡 太郎	株式会社理研
	前田 忠嗣	株式会社ゼンシン

2016年度 RIAS(アドバンストコース)受賞者

最優秀賞	草野 義国	株式会社東邦銀行
優秀賞	田中 紳也	盛岡信用金庫
	吉田 宏	株式会社北日本銀行



RIAS 成果発表会



RIPS 成果発表会



RIAS 最優秀賞 草野氏への表彰状授与



RIPS (アドバンストコース) 卒塾者



RIAS (アドバンストコース) 卒塾者

3-1-4 卒塾後の重点支援

今年度には新たに4事業が重点支援対象事業として選定され、既存の11事業と合わせて合計15事業に対して卒塾後のフォローアップが行われた。定期的なフォローゼミは、年に4回（原則6月、9月、12月、3月）開催され、臨時指導も多く行われた。指導は、板垣特任教授の統括のもと、実践ゼミコーチ陣が担当した。

2016年度の重点支援対象事業

氏名	所属機関	事業名
伊勢ちかこ	イリナ・ミュージカル(合)	ミュージカル体験によるパーソナルグローアップ事業
阿部章	(有)バルコ	次世代型券売機システムの開発と店舗開業運営支援システム
三輪寛	(株)ワイヤードビーンズ	職人とのモダン製品の継続的な開発と、流通販売の仕組みを構築
箱崎陽介	ハコショウ食品工業(株)	日本伝統の「だし」生成技術の活用による食のあたらしい価値創造
齋藤栄太	齋栄織物(株)	次世代シルク糸の開発による高機能シルク織物の開発と国内外への販路開拓
高橋敏宏	(株)アエラ住設	いつも素敵で快適なライフステージ対応住環境商品の開発と提供
田中穂光	(株)ガーデン二賀地	生活空間環境の質をより良くする宅配花壇サービス
菅井伸一	(株)ヒロセ	誰もが自分にとって最適・快適な靴に会えるプラットフォームの創出～Dr. Shoe Box～
鶴川佳子	耐南商事(株)	東日本大震災および福島原発事故の復興支援を目的として、当社の主体事業である高齢化を対象とした「介護美容ケア事業」に従事する「ハイジェニックビューティシャン」の早期育成事業
及川啓隆	(株)クラシコ	「可変する壁」DESIGN FREE WALL×映像コンテンツによる「景観融合型」GARDEN THEATER事業
厨勝義	(株)アイローカル	要望にこたえて「創る」本当にほしいスキンケア製品
小尾 勝吉	愛さんさん宅食(株)	障がい者を介護人材として育成する事業
赤沼 範高	(株)赤沼商店	海外に旨みという概念と仕出しシステム広め、日本料理を総合的な文化として広めていく事業
氏家 正裕	(株)仙台共立	不動産のハイブリット活用による新しいライフスタイルの提案と実践ゼミ事業
高橋 要	(株)イル・デ・パン	カット技術習得デジタルアプリ開発・販売事業

【重点支援対象事業者に対するヒアリング実施】

重点支援対象事業者に対するこれまでのフォローゼミを中心とした支援のあり方について評価するとともに、事業化促進のために必要な措置を探るために対象事業18社に対してヒアリング調査を行った。その結果、次のような課題が明らかになった。

- ①事業が着実に進展しているとする企業が約4割と必ずしも多くない。
- ②フォローゼミを通じて東北大学に支援されることが自社にとって大きな資産であり、自身

の研鑽の場としても有用である。しかし、事業や周辺環境が変化しているのだから柔軟な対応が欲しい。

③公的支援機関との連携による支援や専門家の支援が欲しい。また、重点支援者同士の議論の場を持ちたい。

そこで、来年度から重点支援対象事業および卒業生に対する支援方法を大きく見直して、中小企業基盤整備機構東北本部、みやぎ産業振興機構、仙台市産業振興事業団などの地域の公的な支援機関を積極的に活用する仕組みに改めることにした。

3-1-5 プルデンシャル財団助成事業

米国に本拠地をおくプルデンシャル財団は、東日本大震災からの復興支援の一環として、2014年度から3年間にわたりおよそ合計1億円の資金を提供してRIPS卒業生の事業化を助成している。2014年度には、3名が採択され合計2800万円が、2015年度には5名が採択され合計3500万円がそれぞれ助成された。



(1) 今年度の新規採択（5事業）

最終年度となる今年度は14件の応募があったが、一次審査（書類審査）および外部審査委員会による二次審査（面接審査）を経て下記の5名が選定され、合計3000万円の助成金が交付された。

2016年度プルデンシャル財団助成事業の採択事業

採択者名	会社名	事業名
櫻井鉄矢	(株) 仙台買取館	「中古着物」を「アロハシャツ」に再生加工し、国内及び海外に向けて販売するビジネス
小尾勝吉	愛さんさん宅食(株)	介護人材育成プログラムによる軽度障がい者の雇用創出事業
升 遷	(株) ミトカン	中小企業と大学生がWin-Winになれる採用・就活アプリ「SciMoo!!」(サイムー)
厨 勝義	(株) アイローカル	地域の特産品(海藻、シルク等)を使用した小型のアロマ石鹸「アロマキューブ」の開発・製造・販売事業
有賀靖浩	ありがとうリサイクル(株)	高品質な各種日本商品の廃棄品を、新たな価値提案で再生し、海外市場へ新商品として販売する事業

(2) 米国プルデンシャル財団本部訪問および感謝状贈呈

今年度がプルデンシャル財団助成事業の最終年度であることから、2017年3月末に秋田研究科長、藤本センター長および板垣特任教授が米国のプルデンシャル財団本部を訪問し、これまでの助成事業実施結果について総合的に最終報告するとともに、本学から財団に対して感謝状を贈呈した。



プルデンシャル財団への最終報告会と感謝状の贈呈式（2017年3月30日）

ブルデンシャル財団助成金 2016 年度最終報告書（総括部分）

1 報告の目的

本報告は 2014 年度より開始された財団助成事業の実施状況について、RIRC が財団に対して 2016 年度の最終報告を行うものである。今回は、2014・2015・2016 年度に採択された 13 事業について報告する。

2 報告する支援事業の概要

【2014 年度採択事業】

事業コード	事業概要	助成金額
2014-Musical	事業名：ミュージカル体験によるパーソナル「ローアップ」事業 ～東北発、ブロードウェイ・エンターテインメント・イノベーション～ 責任者：伊勢ちかこ，会社名：イリナミュージカル（宮城県仙台市）	1,000 万円
2014-Dashi	事業名：日本伝統の「だし」生成技術の活用による食のあたらしい価値創造 責任者：箱崎 陽介，会社名：ハコショウ食品工業株式会社（岩手県花巻市）	800 万円
2014-Silk	事業名：次世代シルク糸の開発による高性能シルク織物の開発と国内外への販路開拓 責任者：齋藤 栄太，会社名：齋榮織物株式会社（福島県伊達郡川俣町）	1,000 万円

【2015 年度採択事業】

事業コード	事業概要	助成金額
2015-Beautician	事業名：高齢者を対象とした「介護美容ケア事業」に従事する「ハイジェニックビューティイノベーション」の育成事業 責任者：鶴川佳子，会社名：耐南商事株式会社（福島県会津若松市）	500 万円
2015-Flower	事業名：生活空間環境の質をより良くする宅配花壇サービス 責任者：田中穂光，会社名：株式会社ガーデンニ賀地（宮城県仙台市）	1,000 万円
2015-Shoes	事業名：誰もが自分にとって最適・快適な靴に出会えるプラットフォームの創出 ～Dr.Shoe.Box～ 責任者：菅井 伸一，会社名：株式会社ヒロセ（宮城県仙台市）	900 万円
2015-Traditional	事業名：職人とのモダンデザイン製品の継続的な開発と、国内外の顧客と地域、職人を結ぶ IT の仕組みを構築 責任者：三輪 寛，会社名：株式会社ワイヤードビーンズ（宮城県仙台市）	500 万円
2015-Wall	事業名：「可変する壁」DESIGN FREE WALL×映像コンテンツによる「景観融合型」GARDEN THEATER 事業 責任者：及川 啓隆，会社名：株式会社クラシコ（岩手県奥州市）	600 万円

【2016 年度採択事業】

事業コード	事業概要	助成金額
2016-Aloha	事業名：「中古着物」を「アロハシャツ」に再生加工し、国内及び海外に向けて販売するビジネス 責任者：桜井鉄矢，会社名：株式会社仙台買取館（宮城県仙台市）	500 万円
2016-Well-being	事業名：介護人材育成プログラムによる軽度障がい者の資格取得および雇用創出事業 責任者：小尾 勝吉，会社名：愛さんさん宅食株式会社（宮城県塩釜市）	900 万円
2016-Matching	事業名：東北地方の中小企業と働きたい学生のための採用・就活プラットフォーム事業～SciMoo～ 責任者：升 遷，会社名：株式会社ミトカン（宮城県仙台市）	500 万円
2016-Kawaii	事業名：地域の特産品（海藻、シルク等）を使用した小型のアロマ石鹸「アロマキューブ」の開発・製造・販売事業 責任者：厨 勝義，会社名：株式会社アイローカル（宮城県女川町）	500 万円
2016-Recycle	事業名：高品質な各種日本商品の廃棄品を、新たな価値提案で再生し、海外市場へ新商品として販売する事業 責任者：有賀 靖浩，会社名：ありがとうリサイクル株式会社（岩手県花巻市）	600 万円

3 フォローアップ実施概要

事業コード	定期支援				その他
	1st	2nd	3rd	4th	指導累積回数
2014-Musical	○	○	○	○	8回(臨時指導含む)
2014-Dashi	○	○	○	○	5回(臨時指導含む)
2014-Silk	○	○	○	○	4回
2015-Beautician	○	○	○	○	6回(臨時指導含む)
2015-Flower	○	○	○	○	4回
2015-Shoes	○	○	○	○	4回
2015-Traditional	○	○	○	○	4回
2015-Wall	○	○	○	○	5回(臨時指導含む)
2016-Aloha	○	○	○	○	4回
2016-Well-being	○	○	○	○	4回
2016-Matching	○	○	○	○	4回
2016-Kawaii	○	○	○	○	5回(臨時指導含む)
2016-Recycle	○	○	○	○	7回(臨時指導含む)

- ・ 1st regular follow-up:内容
今年度における目標、取組、体制、予算、スケジュールの設定を行った。
- ・ 2nd~4th regular follow-up:内容
年度計画に基づいて各四半期におけるPDCA (Plan, Do, Check, Action) の実施および相談への対応を行った。

4 支援体制

以下に示す体制にて、支援・指導を行った。

- ・ 統括ディレクター：板垣良直
- ・ 担当コーチ：6名：菅野隆夫、高橋利春、新城榮一、上條太郎、渡辺裕之、及川哲也
- ・ 地域連携室長： 富澤辰治

5 事業進捗状況 別紙（省略）

6 総合コメント

- ・ 計画通り、専任の支援体制を構築し、2016年4月から2017年1月末までに、ゼミ形式にて定期支援、臨時指導を実施した。
- ・ 2014年、2015年度対象者の成果について
いずれのフォロー支援対象企業においても、重点課題について四半期単位のアクション・プログラムを計画し、真摯かつ着実にその執行に努めた。この結果、雇用促進・ブランディング・シェア拡大・施設開設など、対象企業それぞれの目標達成に向け、ほぼ計画通りの成長を遂げたケースがほとんどであった。中には、想定した計画以上の成果を上げた企業もみられる。
一方、既存事業の不安定さ・経営環境の変化によって、計画そのものを縮小せざるを得ないケースもみられる。以上のように、支援対象企業が到達した成果にはかなりの格差・バラツキがみられる。特に、経時的な経営環境の変化によって、当初の事業構想の大幅な変更が必要となるケースもみられることから、今後は各企業が直面している現実的な問題点や課題の解決をも視野に入れた、より実践的な支援を実施していくこととしている。

2017年3月31日

ブルデンシャル財団助成金審査委員会委員長
東北経済産業局長 田川 和幸
東北大学大学院経済学研究科長 秋田 次郎
地域イノベーション研究センター長 藤本雅彦

3-1-6 OB会の活動

(1) RIPS

2014年5月に設立されて以来、RIPS OB会は卒業後の継続学習と相互研鑽の場として機能し、東北地域を活性化するイノベーションプロデューサーのネットワークとして成長している。今年度も、OB会の運営のもとで「経験デザイン研究会(EDS)」と「事業実践研究会(BPS)」が開催され、卒業生たちの継続学習と相互研鑽の場となっており、またOB会を通じて会員間の事業連携が行われている。

今年度に注目すべきことは、①経験デザイン研究会の活動として、これまでの学習活動だけに止まらず、実際に新事業を立ち上げるためのプロジェクト創出活動を開始し、複数のプロジェクトが外部の人を巻き込みながら展開されていること、②右腕人材育成プロジェクトの実施、③OB会がRIPSの講師をお招きして研究会、勉強会を開催するなどの独自の動きを始めたことである。

RIRCは、これらの研究会活動を支援するとともに、ホームページにRIPS/RIAS学習交流広場コーナーを設け、会員情報の共有、イベント開催の案内、会員同士のコミュニケーション及びビジネスパートナー探しの支援ができるよう内容を一新した。

(2) RIAS

RIASのOB会は、2016年7月9日に設立総会が開催され、「相互研鑽と連携により会員の目利き力、支援力の高度化を目指すとともに、所属する機関及び地域中小企業等のイノベーションを推進することによる東北地域の発展・活性化に寄与することを目的とする」とした会則が採択され、初代会長に細馬二郎氏(仙台銀行)が選出された。今後、RIRC教員による講演会の開催と会員同士の交流による相互研鑽、RIPS OB会との交流による地域中小企業支援など活発な活動が期待される。



3-2 みやぎ県民大学

(1) 概要

宮城県の委託事業『みやぎ県民大学「学校等開放講座」』を受け入れ、革新的ビジネスを設計するための方法とそれを実践するための手法を学ぶため4回の講座を実施した。

(2) 講義内容

- 第1回 11月10日(木) 18:30～20:30
価値設計とビジネスコンセプトⅠ
- 第2回 11月17日(木) 18:30～20:30
価値設計とビジネスコンセプトⅡ
- 第3回 11月24日(木) 18:30～20:30
実践的人材マネジメントⅠ
- 第4回 12月1日(木) 18:30～20:30
実践的人材マネジメントⅡ

東北大学大学院経済学研究科 地域イノベーション研究センター
みやぎ県民大学 2016

革新的ビジネスの設計と実践
革新的ビジネスを設計するための方法とそれを実践するための手法を学びます。

- 開催日時: 2016年11月10日・17日・24日、12月1日 18:30～20:30
- 開催場所: 東北大学 片平キャンパス エクスナレーション教育研究棟 6階 講義室A
- 募集人数: 50名(18才以上の県民)
- 申込期間: 10月3日(月)～11月4日(金)
- 申込方法: 受講応募用紙をご記入の上、FAXまたはメールで応募
※全額出費をおすすめします。

第1回	11月10日(木) 18:30-20:30	価値設計とビジネスコンセプトⅠ	講師
第2回	11月17日(木) 18:30-20:30	価値設計とビジネスコンセプトⅡ	第1回・2回 東北大学大学院経済学研究科 特任教授 板垣 良直
第3回	11月24日(木) 18:30-20:30	実践的人材マネジメントⅠ	第3回・4回 東北大学大学院経済学研究科 教授 藤本 雅彦
第4回	12月1日(木) 18:30-20:30	実践的人材マネジメントⅡ	

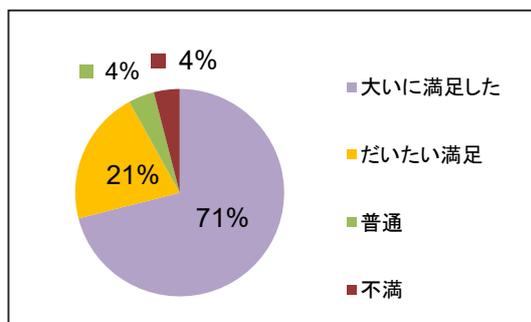
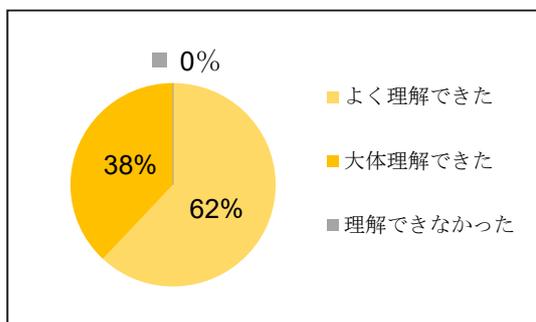
問い合わせ先: 応募先
東北大学大学院経済学研究科
地域イノベーション研究センター
〒981-8577 仙台市青葉区片平2丁目1-1
エクスナレーション教育研究棟6階
TEL: 022-217-6265
FAX: 022-217-6266
E-mail: symaps2016@econ.tohoku.ac.jp

(3) 講師

- 第1回・2回 板垣 良直 経済学研究科 特任教授
- 第3回・4回 藤本 雅彦 経済学研究科 教授



(4) アンケート結果



3-3 社会イノベーター人材育成塾

(1) 事業の趣旨

本事業は、東北地域において社会的課題を解決する事業を構想し運営していくリーダーとなる「社会イノベーター」を育成・支援するもので、経済同友会が東北の人々や経済の元気を取り戻すために実施している復興支援プロジェクト（IPPO IPPONIPPONプロジェクト）からの寄付金でまかなわれている。当センターでは、東北各地で地域再生のために活躍しているリーダーたちに、第一線の社会イノベーターから手法やマインドを学ぶ場を設け、地域づくりの考え方や実行能力の向上を支援する。また、一般の方にも本事業を開放し、社会イノベーターを目指す人材を輩出していく。

(2) 今年度の実施講座

今年度も日本各地の社会起業家を招き、ストが取り組む社会課題と解決方法に関する講演およびワークショップを行う講座を6回実施し、本学の学生やRIPS塾生など延べ164名が受講した。

■第4回（7月14日）

「熊本地震の復興に向け動き出した経営者・現地リーダーへ「右腕人材」を送り込め！！」

講師：一般社団法人フミダス 代表理事 濱本伸司氏

受講者：9名

■第5回（9月13日）

「地域を支える取り組みに資金が循環するには？「お金の地産地消白書を読む会 in 仙台」」

講師：公益財団あいちコミュニティ財団 代表理事 木村真樹氏

受講者：8名

■第6回（10月19日）

「地域文化の資源化ー地域を元気にする特産品開発の秘訣」

講師：株式会社デジタルあじま 代表取締役社長 上地 哲氏

受講者：43名

■第7回（11月2日）

「すべての人が自分らしく暮らせる社会へ」

講師：NPO 法人虹色ダイバーシティ 代表 村木真紀氏

受講者：55名

■第8回（11月18日）

「ホームレス状態を生み出さない日本を目指す！

若手社会起業家の挑戦「社会起業家として生きる」」

講師：NPO 法人 Homedoor 理事長 川口加奈氏

受講者：8名

■第9回（1月11日）

「「二枚目の名刺」～会社という枠を一步踏み出し始めた会社人たち～」

講師：NPO 法人二枚目の名刺 代表 廣 優樹氏

受講者：41名



【受講生の反応】

- 講義当日のアンケートからは、ゲストからの講話とワークショップなどを通じて、自らの行動に繋げていくような反応をいただいている。以下、一部抜粋。
 - ・ 手伝えることがあれば協力させていただきたい。
 - ・ 情報発信への協力を進めたい。
 - ・ 地域内の資金循環により一層取り組むことが地域内金融機関に求められていることを再確認できました。その融資先に社会起業家が今後有望な選択肢になることも分かりました。
 - ・ ホームレスは自己責任で片付けられない人たちなのだを知ることが出来た。ホームレスに対する見方が変わった。
 - ・ 努力するという選択できない人がいる。マイノリティがその状況にある理由を想像する力が現代の日本には欠けていると思いました。
- 具体的な行動を起こそうとする参加者には、個別相談や情報提供を継続的に行い、社会課題解決に進み始めた例も出てきている。
 - 第1回参加者 M さん→社会起業家支援団体に所属し、石巻の起業家支援を実施。その後も支援を続け、助成金獲得とその後の運用に協力している。
 - 第2回参加者 K さん→温泉熱を利用した地元食材の加工販売事業を試行。その事業を軸にその温泉地のブランド化推進事業を本業と別に手がけている。
 - 第4回参加者 A さん→熊本地震に関する支援を実施。

3-4 地域・学生交流プログラム（プロデューサー塾）

プロデューサー塾は、当センターの支援のもとで経済学部が企画運営する事業で、今年度は経済学部のゼミナール協議会と福嶋ゼミの2団体が主催した。

第38回 「仙台市の交流人口拡大に向けた取り組み」

講師：柳津英敬氏

仙台市文化観光局 観光交流部長

主催：経済学部ゼミナール協議会

日時：2016年5月24日（火）15：00～17：00

場所：東北大学経済学部第三講義室

今回のプロデューサー塾では、今年度新たに設置された、仙台市文化観光局の観光交流部長をされている、柳津英敬様にお越しいただき、仙台市の交流人口拡大に向けた取り組みというテーマでご講演をしていただいた。

講演会全体の流れとしては、まず、観光とは何かという部分から始まり、続いて日本の人口、経済の現状、そしてそれを踏まえた観光が果たす役割、最後に東北地方、仙台市の観光事情と交流人口拡大に向けた取り組みについてお話をいただいた。

観光にはなんとなく興味はあるものの、なぜ観光が重要なのか、あるいは観光が経済にどのような影響を与えているのかといった、観光を学ぶ上での基本的なことを知らない学生も多かったと思うが、そのような学生向けにも非常に基礎的な部分から詳しく説明していただいた。

この講演を通じて、観光客を増やすために行政が何を行っているのかという部分を知ることができただけでなく、観光に関する基本的なことがらを学ぶことができたことによって、具体的にどのようにすれば観光客を呼び込むことができるかを自分なりに考えてみるきっかけにもなった。

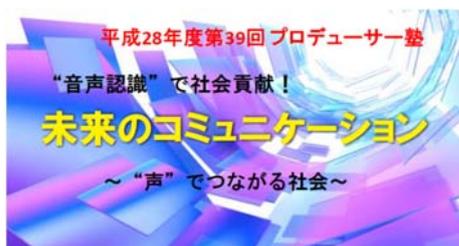
今回は、およそ45名の経済学部を中心とする学生に参加いただいた。

その中には、観光に興味がある学生に加え、仙台市をはじめとする公務員という仕事に関心のある学生もいたと思われるが、柳津様自身の経験にも触れていただく場面もあり、また、終了後に数名の学生が直接質問をしに行くという光景も見られ、そのような学生にとっても今回のプロデューサー塾は非常に有意義な機会になったと思われる。

（ゼミナール協議会 学生支援局長 岩城恭平）



第 39 回「未来のコミュニケーション～“声”でつながる社会～」



株式会社アドバンスト・メディア
代表取締役会長兼社長
鈴木 清幸氏

7月6日(水)
15:00～17:00
受講料無料

会場
東北大学経済学部第3講義室

1952年1月13日愛知県生まれ。1978年 京都大学大学院工学研究科博士課程。途中退学し、東洋エンジニアリング株式会社入社。1986年 株式会社インテリジェントテクノロジー入社。
カーネギーメロン大学のKECP(Knowledge Engineer Cultivation Program)修了し知識工学者(Knowledge Engineer)に認定される。2005年に株式会社アドバンスト・メディアが東証マザーズに株式上場。2010年 同社代表取締役会長兼社長に就任、現在に在る。

1997年12月 音声認識専門ベンチャーとして、株式会社アドバンスト・メディアを創業。

お問い合わせ
福嶋ゼミナール 代表:林 健吾
TEL.090-5688-0791
E-mail: xcc6636@gmail.com

Facebook: <http://url.mobi/uo62>



講師：鈴木 清幸氏
株式会社アドバンスト・メディア
代表取締役会長兼社長

主催：福嶋ゼミナール

日時：2016年7月6日(水) 15:00～17:00

場所：東北大学経済学部第三講義室

今回の講演には、株式会社アドバンスト・メディアの代表取締役会長兼社長でいらっしゃる鈴木清幸様をお呼びしました。鈴木様は1997年に自ら起業して高性能の音声認識ソフトを開発し、企業だけでなく音声認識市場をけん引していらっしゃる方です。最先端技術がこれからの社会でどう位置付けられるのか、何を求められるのか、をテーマに講演いただきました。

Ami Voice という音声聞きとった通りに即座に文字に起こす製品の性能を実際にみせてくださり、モバイル・医療・教育・コールセンターといった多岐にわたる分野でそれぞれどのようなサービスを提供し使用されているのかについて、スライドや過去のテレビ取材時の映像を織り交ぜながら説明していただきました。

「キカイ」との自然なコミュニケーションを表現し、豊かな未来を創造するという企業理念やこれからの成長戦略についてもお話いただきましたが、中でも「生をつなぐことと成長を継続し続けることが進化につながる」、

「顧客は探すものではなく創るものだ」という鈴木様の言葉には自ら新しい分野を開拓するために起業した方であるからこそその言葉の重みがあり、説得力をもって私たち学生の心に響いてきました。

最後の質疑応答の際には、テクノロジーの発展がヒトから仕事を奪うことについて、生を継続させていくために我々はどうすべきか、また、創業以来の課題や苦勞したことをどのように乗り越えて現在に至るのかといった学生からの多くの質問の一つひとつ丁寧に答えてくださいました。

今回の講演は、最先端の音声認識技術に触れ、企業をけん引する方の貴重なお話を伺うことができただけでなく、人工知能などのテクノロジーが急激に発展している社会でこれから社会人としてどう生きていくかを考える重要な機会となりました。

(福嶋ゼミ 八木さくら)

4. 地域交流と広報

4-1 連携協定締結

今後のRIPS 塾生開拓および地域社会に対する広報体制強化のために、今年度は以下のようなセミナーの実施、関係機関との連携協定締結など地域との交流活動を積極的に行った。

(1) 仙台卸商センターとの連携協力協定

2016年5月13日に協同組合仙台卸商センターとの間で連携協力協定を締結した。今後、①若年経営者等の育成事業、②中小企業の経営改善及びイノベーション促進事業、③地域活性化に関する調査研究事業、等を実施していく。特に、RIPS への若手経営者の入塾推薦、経営セミナーの実施、卸団地のあり方についての調査研究などの取り組みを行っていく。



(2) 花巻信用金庫との連携協力協定：花巻信金・東北大地域産業活性化モデル事業の実施

2017年1月27日に地域イノベーション研究センター及び花巻信用金庫は、イノベーション人材の育成を図るとともに、花巻市および周辺地域産業の活性化を図ることを目的に連携協力協定を締結した。主な連携事業としては、①若年経営者および支援者の育成事業、②地域における革新的事業実現を目指すモデル事業（[花巻信金・東北大地域産業活性化モデル事業](#)）、③中小企業の経営改善事業、④地域活性化に関する調査研究事業等である。今後、本協定に基づき、地域中小企業のイノベーション促進による地域活性化のための取り組みを行っていく。2017年4月15日に、花巻信金本社でRIPS 卒塾生による事業の現状と課題について最初の報告会が開催された。



(注) [花巻信金・東北大地域産業活性化モデル事業](#) RIPS とRIAS で学んだ卒塾生が、花巻地域において相互に連携しつつイノベーション事業実現に向けて取り組むことを、花巻信金、東北大学が連携して支援する事業。これにより、地域における雇用の創出を図り、地域産業の活性化が図られることを実証しようとするもの。

(3) 登米市との連携協力協定

2017年3月17日に登米市と連携協力協定を締結し、登米市および周辺地域の地元企業の人材育成と産業の活性化を図るために、①若年経営者等の育成事業、②中小企業の経営改善及びイノベーション促進事業、③地域活性化に関する調査研究事業、④RIPS, RIAS の運営協力、等に取り組むことにした。今後、県北地域におけるRIPS, RIAS サテライト設置の候補地としての可能性も探ることとしている。



4-2 地方自治体、金融機関、経済団体等との連携によるセミナーの実施

セミナー名	開催日	連携機関
イノベーション創出セミナー	2016年7月22日(金)	郡山商工会議所
2016年度東北大学経営セミナー in 卸商センター	2016年11月28日(月)	仙台卸商センター
2016年度東北大学経営セミナー in 郡山	2016年12月6日(火)	郡山市、郡山商工会議所、郡山地 域商工会広域協議会
2016年度東北大学経営セミナー in 盛岡	2016年12月13日(火)	盛岡市、盛岡商工会議所、岩手銀 行、盛岡信用金庫、花巻信用金庫、 岩手県中小企業家同友会
宮城県中小企業家同友会 栗原支部セミナー	2017年1月19日(木)	宮城県中小企業家同友会
2016年度東北大学経営セミナー in 卸商センター	2017年1月20日(金)	仙台卸商センター
中小機構、東北大学合同セミナー	2017年1月26日(金)	中小機構東北支部、中小企業大学 校仙台校
地方創生・イノベーション人材育成セ ミナー	2017年2月3日(金)	七十七銀行

4-3 人材育成の支援

(1) 「いしのまきイノベーション企業家塾」への支援

当センターは、2014年5月に石巻信用金庫が開講した「いしのまきイノベーション企業家塾」に対して、その構想段階から運営体制やカリキュラムの開発などについて協力させて頂くとともに、講師を派遣するなどの緊密な連携を行っている。また、この塾の卒業生にはRIPSへの推薦入塾が認められ、今年度は2名の推薦があった。

(2) 鶴岡信用金庫「若手経営塾」への支援

鶴岡信用金庫では、東北公益文科大学と連携して2015年度から「若手経営塾」を開講している。この塾では若手経営者、後継経営者、創業者の経営力を高めるため、経営学の基礎を体系的に学び地域経済をけん引する素養と見識を高めることを目的としている。当センターは、この塾に対して講師派遣および塾運営のノウハウなどを提供し、将来的にはRIPS、RIASのような人材育成の仕組みを庄内地域で展開することを目指し検討していく。

(3) 同友会大学への支援

宮城県中小企業家同友会は、環境変化に強い企業づくりと地域に責任を持って挑戦するトップリーダー育成を目的とした「同友会大学」を開講している。当センターは、会場提供および講師派遣などの緊密な連携を行っている。

4-4 パブリシティ（新聞・雑誌掲載記事一覧）

- ・2016年7月25日（月） 河北新報
とうほく創生 Genki プロジェクト 潜在的資源発掘を 価値生み出す人材必要
地方創生へ向けた方策聞く 東北大地域イノベーション研究センター長 藤本 雅彦氏
- ・2016年7月25日（月） 福島民報
とうほく創生 Genki プロジェクト 潜在力に“磨き”を 観光、食、産業に注目
東北大地域イノベーション研究センター長 藤本 雅彦氏に聞く
- ・2016年7月25日（月） 福島民友
ビジネスの展望探る 商議所会館でセミナー ビジネスデザイン発想について話す権教授
- ・2016年12月1日（木） 河北新報
とうほく創生 Genki プロジェクト フォーラム in 福島 モデレーター 藤本 雅彦氏
- ・2016年12月7日（水） 福島民友
新事業のヒント探る 東北大が経営セミナー 事業イノベーションの考え方を説明する
藤本教授
- ・2016年12月14日（水） 岩手日報
盛岡で東北大経営セミナー 藤本教授
- ・2017年1月28日（土） 河北新報
地域の経営者支援へ 花巻信金と東北大協定
- ・2017年1月30日（月） 日刊工業新聞
中小大学校仙台東北大とセミ 地域企業テーマ
- ・2017年2月16日（木） いわき民報（夕刊）
発見力、実行力のある必要性述べる 東北大大学院 藤本教授講演
- ・2017年2月17日（金） 福島民報
消費者動向に理解 うるしの実クラブ講演会 藤本雅彦氏
- ・2017年3月号 宮城県中小企業家同友会 DOYOU（どうゆうみやぎ）
“経験デザイン”が企業を変える～価値創造とイノベーションの秘訣～ 権 奇哲
- ・仙台卸商センター団地ニュース vol.52 No.2（第553号／2・3月号）
第2回 東北大学経営セミナーを開催 藤本 雅彦氏
- ・2017年3月18日（土） 河北新報（とうほく経済面）
事業開発など登米市と協定 東北大研究センター
- ・2017年3月20日（金） 仙北郷土タイムス
登米市を拠点に県北地域の人材育成と産業の活性化を図る 地域イノベーション研究センターと連携締結

【今年度の実施事業】

2016. 04 地域イノベーションプロデューサー塾・地域イノベーションアドバイザー塾
(ベーシックコース) の開講
- 05 第 38 回プロデューサー塾の開催
- 05 東北発水産業イノベーションプロジェクト第 1 回研究会の開催
- 06 東北発水産業イノベーションプロジェクト第 2 回研究会の開催
- 06 東北発水産業イノベーションプロジェクト第 3 回研究会の開催
- 07 東北発水産業イノベーションプロジェクト第 4 回研究会の開催
- 07 東北発水産業イノベーションプロジェクト第 5 回研究会の開催
- 07 第 39 回プロデューサー塾の開催
- 07 第 4 回社会イノベーター人材育成塾の開催
- 07 地域イノベーションプロデューサー塾・地域イノベーションアドバイザー塾
(ベーシックコース) 卒塾式
- 08 東北発水産業イノベーションプロジェクト第 6 回研究会の開催
- 09 地域イノベーションプロデューサー塾・地域イノベーションアドバイザー塾
(アドバンストコース) の開講
- 09 第 5 回社会イノベーター人材育成塾の開催
- 10 第 6 回社会イノベーター人材育成塾の開催
- 11 第 7 回社会イノベーター人材育成塾の開催
- 11 第 8 回社会イノベーター人材育成塾の開催
- 11 東北大学経営セミナーin 仙台卸商センターの開催
- 11 みやぎ県民大学開放講座の実施
- 12 東北大学経営セミナーin 郡山の開催
- 12 東北大学経営セミナーin 盛岡の開催
- 12 地域イノベーションプロデューサー塾・地域イノベーションアドバイザー塾
(アドバンストコース) 卒塾式
2017. 01 第 9 回社会イノベーター人材育成塾の開催
- 01 東北大学経営セミナーin 仙台卸商センターの開催
- 02 地方創生・イノベーション人材育成セミナーの開催
- 03 東北発水産業イノベーションプロジェクト中間報告カンファレンスの開催

【所在・連絡先】

東北大学大学院経済学研究科地域イノベーション研究センター

住所：〒980-8577

宮城県仙台市青葉区片平 2 丁目 1-1

エクステンション教育研究棟 6 階 (片平キャンパス)

電話：022-217-6265

FAX：022-217-6266

E-mail：rirc@econ.tohoku.ac.jp

Homepage：http://rirc.econ.tohoku.ac.jp/

東北大学大学院経済学研究科
地域イノベーション研究センター活動報告書
(2016.4.1～2017.3.31)

2017年 3月

東北大学大学院経済学研究科地域イノベーション研究センター編